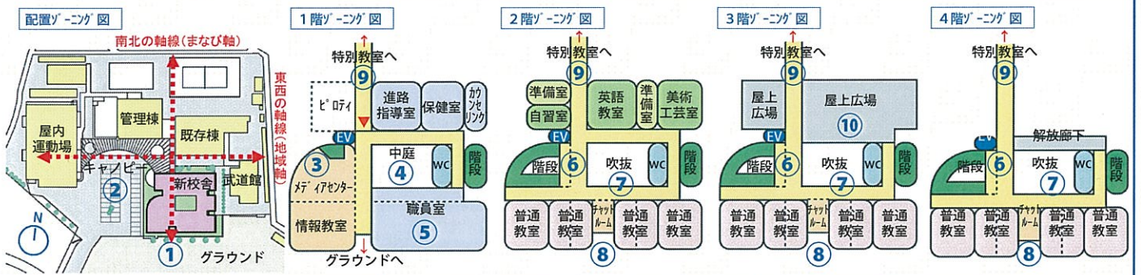
ひかりと仲間 が待っている　～ 生徒の舞台 ～



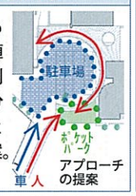
① 既存棟との調和

軸線上に新校舎を配置し、学校機能を一体化することで、既存棟と調和した新校舎を実現。

既存棟の水平ラインを生かしたデザインの渡り廊下やキャノピーを設け、既存棟との調和したデザインを実現。

② 生徒と地域の方を迎え入れる

生徒や地域の方を迎え入れるアプローチは、自然素材や植栽を計画し、落ち着いた特別な空間を演出。また、歩車分離を実現するために新校舎と正門を繋ぐアプローチを提案。



③ 交流拠点となるメディアセンター

地域との交流拠点として、情報教室や階段、中庭と一体的に利用できるメディアセンターを計画。また様々な作品展示をおこなうことで、郷土の伝統や文化と触れる場として計画。

④ 明るく開放的なエコボイド（中庭）

地域の植生に則した草花や地被類を配置し四季を感じられる空間とするとともに光や風をを舎に導き、各階の活気をつなぐ校舎の中心として計画。

プランターなどを利用することでメンテナンス性に配慮。

⑤ 職員室

来校者の対応がしやすく、生徒を見守りやすい１階に配置。

職員室はガラス間仕切りを採用し、見守りやすく緊張感のある環境を構築。教師間の交流の場となるラウンジや、生徒との交流の場となる相談スペースを配置。

⑥ セキュリティ

地域に解放する特別教室は既存棟と新館の１階にまとめて配置することで、明快なセキュリティラインを構築。

各階は階段で区画できる構造とし、利用する教室を集約することで、夜間などもセキュリティを確保。

⑦ 変化のある移動空間

階段、廊下は回遊性のある計画とし、単なる移動空間としてではなく、ベンチや掲示板を設置したり、天井の素材や高さ、照明などに変化をもたせ、生徒が自然と集まり交流が生まれる活気あふれる空間として計画。

⑧ 生徒の居場所

生徒の学生生活を支援するため２０名程度の集団「プライド」と呼ばれる非常に緩やかな人間関係の集団をイメージしホームルーム、休憩などが出来るチャットルームを各階に配置し生徒の帰属性、出会い、情報の交換場を提供

⑨ 既存棟との連携

既存棟と綿密な連携を実現するために、屋内型の渡廊下で接続。3mの幅員を確保し、ガラス張りの明るい移動空間とすることで多様な交流が生まれる空間として計画。

EVは既存棟に近い位置に配置することで、利便性に配慮。

⑩ 屋上広場

屋上は断熱効果の高い緑化を計画し、生徒の教育にも利用できる菜園としても利用。

生徒の活動発表の場としても利用できる舞台を設置。

４階の屋上には太陽光発電設備を計画し、エコスクールを外部にもアピール。

①「学校の顔としてふさわしい施設」

学校の様子が周辺から見透せる建物創りを提案します。校内での先生とのやりとりや、授業の風景、休み時間の友達との語らいなど、生徒たちの明るくひたむきな姿を緩やかに地域に見せることで**「学校の顔としてふさわしい施設」**として、生徒と校舎が一体となり地域と繋がっていくことを目指します。

■ 学校の顔となる多様な立面計画

- 新校舎の南面は床から天井までのサッシュを設け、生徒の活動を外からも見ることができる「生徒の舞台」となる立面計画。またボリュームを分節することで周囲への威圧感を軽減。
- 新校舎の主玄関となるメディアセンターは、夜間でも来訪者を優しく迎え入れる開放的な空間として計画。

■ 生徒 - 教師 - 地域を繋ぐメディアセンター

- メディアセンターは活動の様子が外からもうかがえる開放的な構造とし、会話や読書など生徒と地域の方が自由に滞在できる、地域の学習・交流・情報が集積するコミュニケーションの拠点として計画。また、階段を客席とみたて立体的に臨場感のある発表を行うなど、生徒の舞台となる空間を提案。
- 吹抜空間は騒音の拡散等に配慮し、天井や壁面に適切な吸音性能を確保。
- 吹抜空間には夏季や西日対策として、自然換気を促す換気窓を設け快適環境を確保。

多様な学習形態に対応する豊かな学習環境

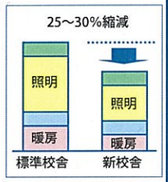
- 普通教室エリアには大小の教室（可動間仕切り）や自習室、チャットルームを設け、生徒の多様な個性に対応できる教育環境を構築。
- 教室は内装を木質化した温もりのある空間として計画。廊下との間仕切り壁には教室内の雰囲気が外へも伝わるガラス間仕切りを採用することで、見通しが良く見守りやすい、緊張感のあるさわやかな学習環境を実現。
- 情報教室やメディアセンター、普通教室、チャットコーナーなど様々な場所で気軽にパソコンを利用できる高度なICT環境を構築する為に、校内LANやLANの無線化などを計画。
- 特別教室は普通教室から中庭を挟んだ位置に設け、音や振動などに配慮。また教室内には作品展示や教材の飾りつけスペースを計画
- 誰もが使いやすい学校となるためにユニバーサルデザインを徹底。

②「自然環境にやさしい施設」

校舎は単なる建物ではなく、引き継がれてきた校風や地域の伝統を未来に伝えていく、地域の重要な建物であると考えます。新校舎が地域に根差した建物となる為に、風土に適した**「自然環境にやさしい施設」**として地域と繋がっていくことを目指します。

■ 地域に根ついたエコスクール

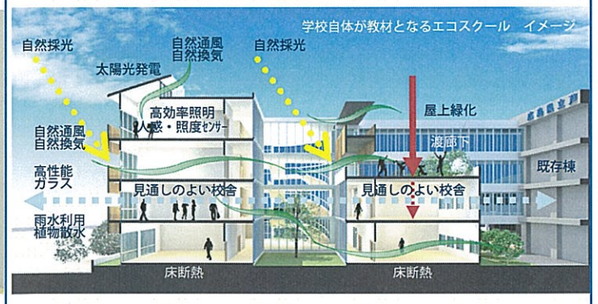
- 瀬戸内海の温暖な気候と長い日射時間などの地域特性や、学校のエネルギー消費の特徴や利用状況等を考慮した、自然エネルギーを最大限に活用したエコスクールを実現。
- 省エネの効果を「見える化」することで、学校自体が教材となるエコスクールを実現。
- LCCO$_2$ 25～30%縮減、CASBEE Aランクを目標。



省エネの効果

■ エコスクール実現の手法

- 東西軸に建物を配置し熱損失を最小限とする計画。
- 庇やライトシェルフによる適切な日射制御や、最上階の重力換気、自然通風など、自然エネルギー最大限取り入れ快適な教育環境を実現。
- 冷暖房負荷低減を実現するために、屋上緑化や遮熱塗料、床断熱、高性能ガラス等を採用し建物の高断熱化を図るとともに、高効率熱源を利用した空調システムや全熱交換機を採用。
- 学校施設のエネルギー使用量の45%を閉める照明エネルギーを削減するために、高効率照明や照度補正、人感・照度センサーなどを採用。
- 学校施設で特に多くなる外気負荷を低減する為に人感センサーによる不在室の換気停止システムの採用や、自然換気ルートを確保。
- 節水型便器や雨水利用を採用し節水を実現。
- 高炉セメントを採用し、LCCO$_2$を縮減。



■ 永く使い続けられる校舎

- 災害時の建物機能や室内環境を維持するために、災害時でも機能を失わない堅牢な構造とし、家具や設備などの二次部材にも耐震性能を確保。高断熱な建物とすることで室内環境を維持するとともに、備蓄倉庫やマンホールトイレ、蓄電池式の太陽光発電装置の採用を検討。
- 将来の要望の変化に柔軟に対応できる構造とするために、内壁にはコンクリート壁を極力設けず乾式の間仕切壁を採用。梁の高さを揃え、あらかじめ配管用スリーブを設置。
- 校舎の長寿命化や更新性、メンテナンス性に配慮し、建設から運用、更新、廃棄までのライフサイクルコストを縮減。
- 学校の伝統を未来へ伝えるために、歳月の経過とともに場の味わいが増していく、ウッドデッキやレンガ、木、左官壁などの自然素材を採用。自然素材へのメンテナンスを通し、生徒が校舎への愛着を持ち、いたわる心を育む環境を構築。
- 備後絣をモチーフとしたデザインを、サイン計画や壁面、建具などに採用し、地域の伝統を伝える校舎を実現。